神奈川
川　新　聞　　2004年（平成16年）3月29日　月

任期・年俸制に反対

横浜　教育のあり方問いシンポ

横浜市立大などの改革方針で示された「任期制・年俸制」導入による教育のあり方を問うシンポジウムが二十八日、横浜市中区の情報文化センターホールで開かれた。

市内在住・在勤の大学教員でつくる「横浜市立大学問題を考える大学人の会」（呼び掛け人・今井清一市大名誉教授ら六人）の主催。

シンポジウムに先立ち、神戸大大学院の阿部泰隆教授は、京都大再生医科学研究所の教授が優れた実績があるにもかかわらず、任期制によって同僚らから失職処分を受けた事例を紹介。「任期制は多数派による少数派の弾圧手段であり、学問の活性化は望めない」と導入反対を訴えた。

横浜市大などをテーマに年俸制や人事評価制度にまで幅を広げて話し合われたシンポジウムでは、松井道昭市大教授、日下部禧代子元文部政務次官らがパネリストとして出席。「（中田市政は）大学でも競争原理を重視しようとしている。任期制と年俸制の導入は目的に向かわせる万能薬と想定されているのでは」（松井教授）などと学問の自由の観点からの反対意見が出されるなど、活発な意見が交換された。

（三木　崇）

横浜市大などの任期制・年俸制などの改革方針の是非が話し合われたシンポジウム＝横浜市中区の情報文化センターホール